

三重県重症児者を対象とした COVID19アンケート調査 結果概要

三重大学病院小児トータルケアセンター
三重県小児在宅医療ワーキンググループ

新型コロナウイルス感染症に関するアンケート

【アンケート内容抜粋】

保護者宛

- ・ サービス事業所の利用状況（自粛）
- ・ 児の状態変化
- ・ 臨時休校中の学校利用
- ・ 家族への影響
- ・ 今後、主介護者などが感染又は濃厚接触者になった場合の対応

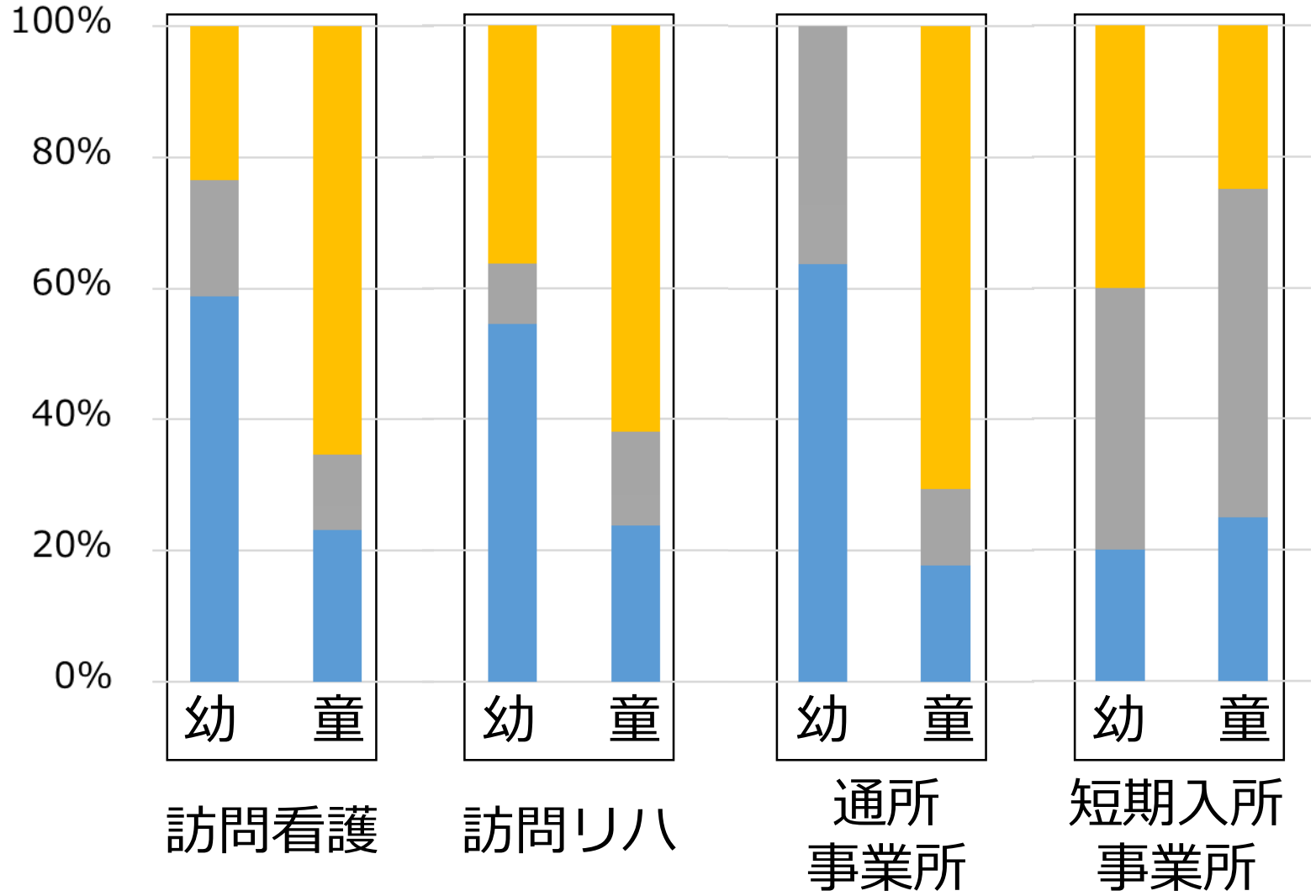
事業所宛

- ・ 自粛などの事業活動
- ・ 防御体制
- ・ 困難と感じた事
- ・ 困難に対して工夫した事

配布先	配布	返信	返信率 (%)
就学前児童の保護者	90	33	36.7
特別支援学校に在籍する児童	240	133	55.4
訪問看護ステーション	178	49	27.5
訪問リハビリステーション	21	7	33.3
居宅介護・重度訪問介護事業所	210	58	27.6
就労継続支援B型事業所	241	39	16.2
障がい児通所支援事業所： 児童発達支援	124	28	22.6
障がい児通所支援事業所： 放課後等デイ	227	51	22.5
障がい児通所支援事業所： 保育所等訪問支援	13	5	38.5
障がい児通所支援事業所： 居宅訪問型児童発達支援	4	4	100.0
生活介護事業所	151	84	55.6
短期入所施設	100	30	30.0
合計	1599	521	32.6

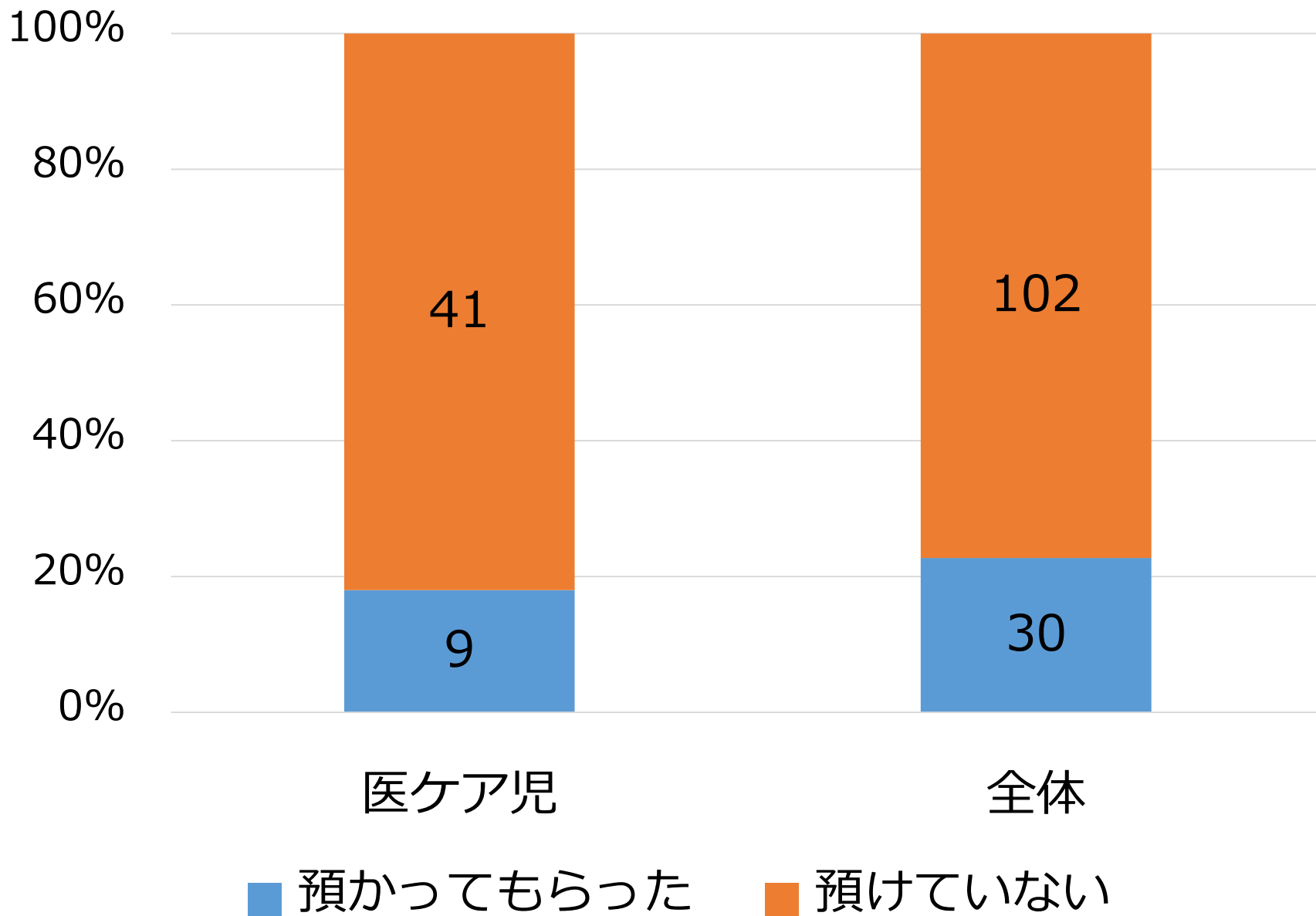
医療的ケア児の事業サービス利用の自粛状況

■ 自ら自粛 ■ 事業所が自粛 ■ 変更なし



幼：乳幼児 童：学童

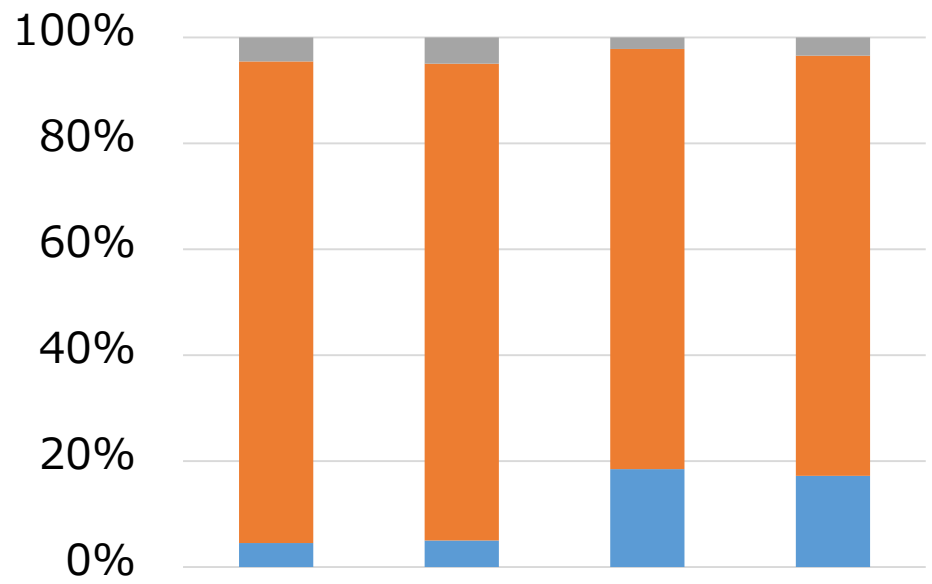
休校中の学校の利用状況（学童）



子どもの体調変化

筋緊張

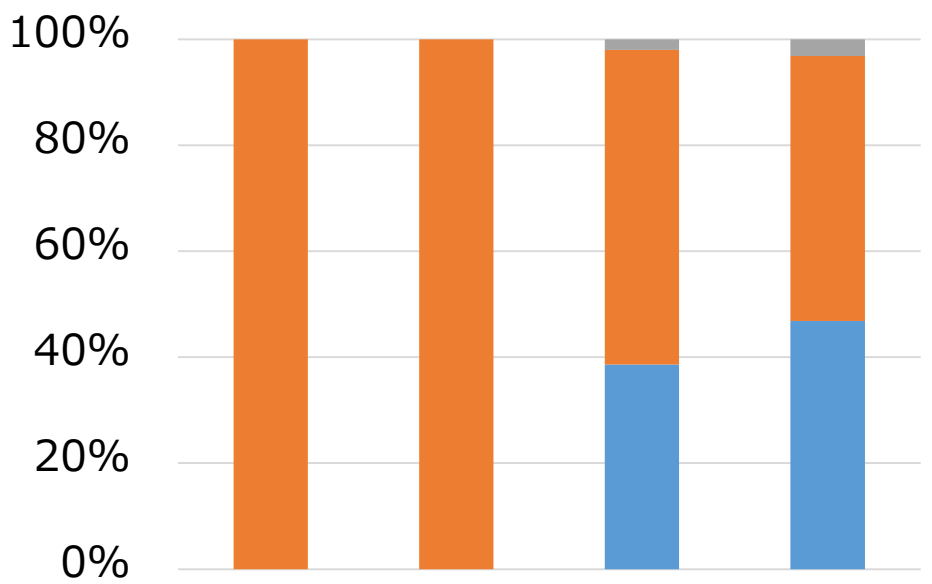
■ 高まった ■ 変わらない ■ 和らいだ



乳幼児 全員
乳幼児 医ケア
学童 全員
学童 医ケア

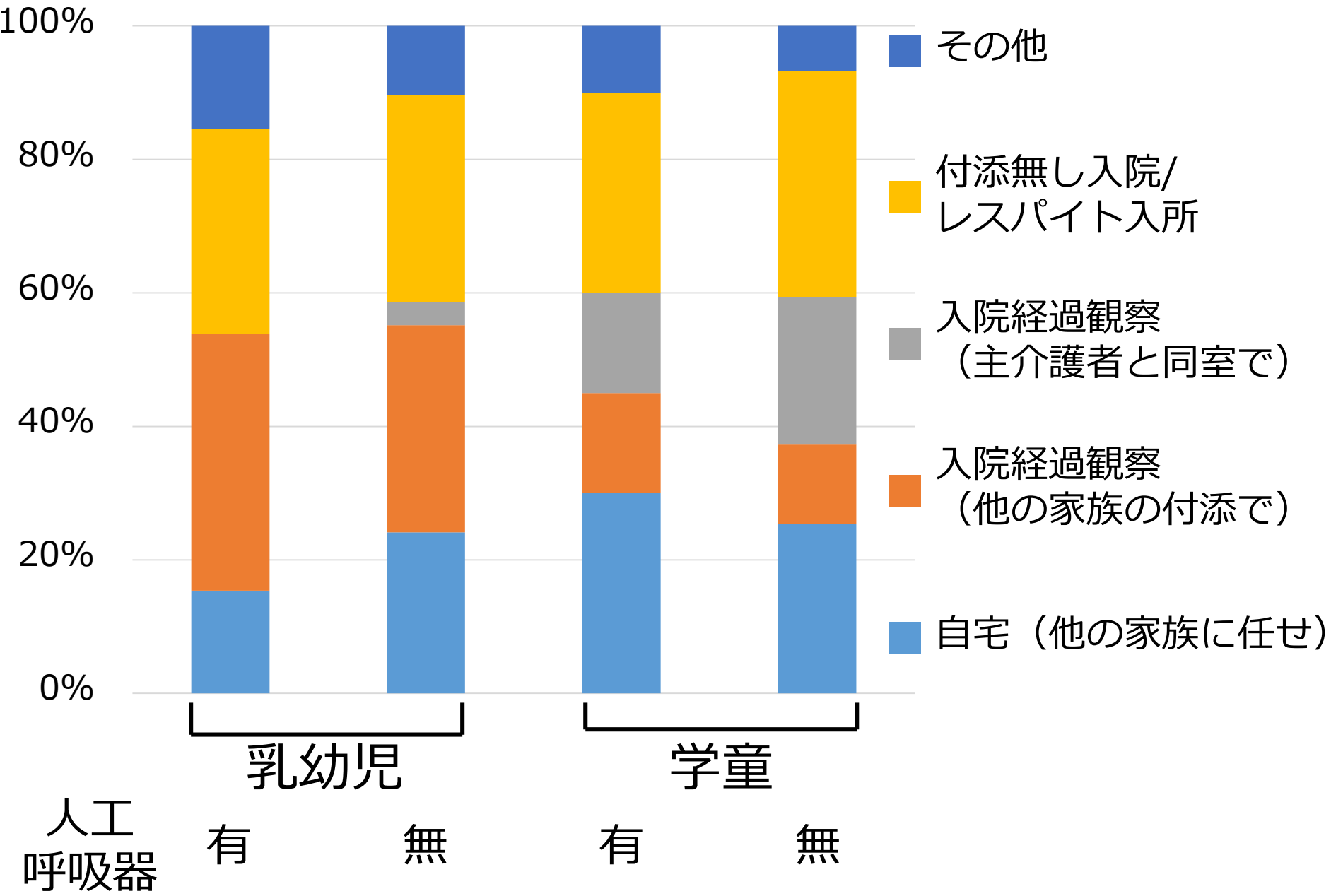
生活リズム

■ 崩れた ■ 変わらない ■ 整った



乳幼児 全員
乳幼児 医ケア
学童 全員
学童 医ケア

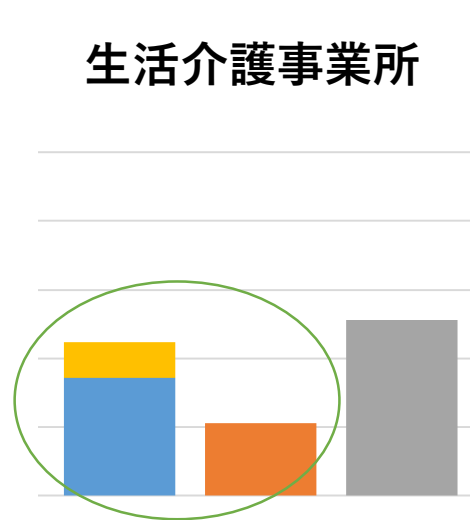
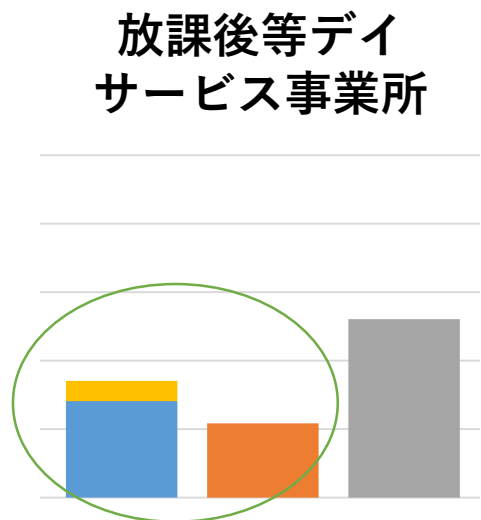
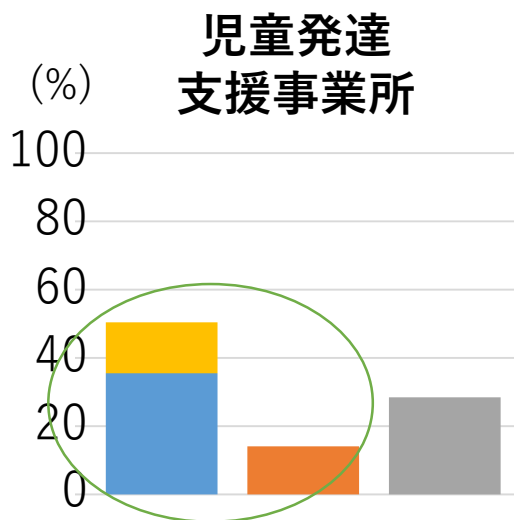
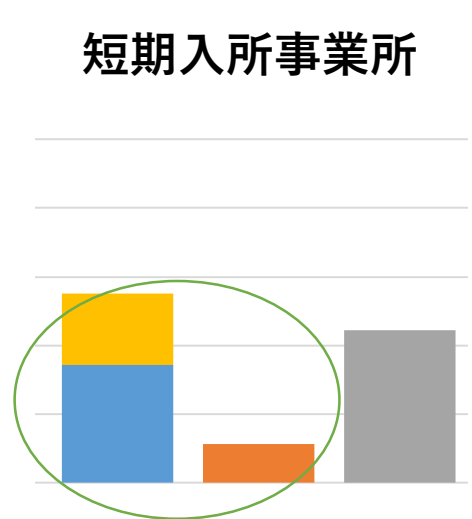
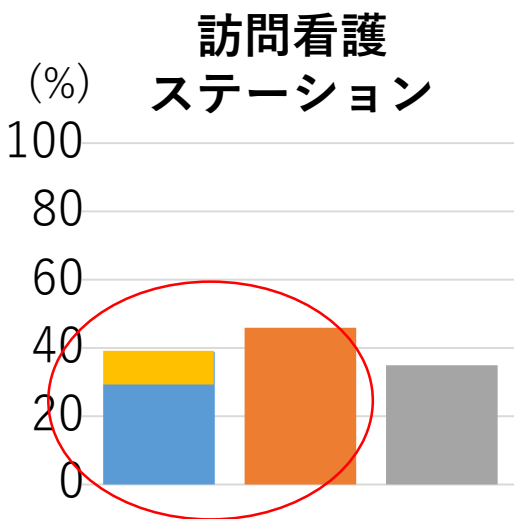
主介護者が感染した場合の対応 案



サービス事業所別 アンケート内訳

	該当	18歳未満の医療ケア児	重症心身障害児者	遷延性意識障がい者
訪問看護ステーション	26	21	22	10
居宅介護・重度訪問介護事業所	21	4	17	10
児童発達支援	14	12	12	
放課後等デイ	23	19	19	
保育所等訪問支援	1	1	1	
居宅訪問型児童発達支援	2	2	2	
生活介護事業所	43		43	8
短期入所施設	9	2	9	3

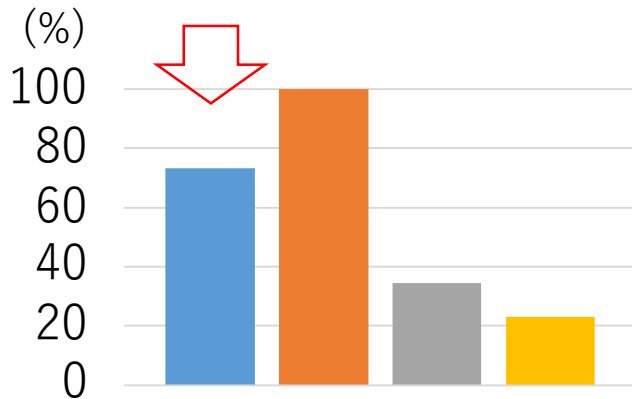
サービス事業所別 「自粛状況」



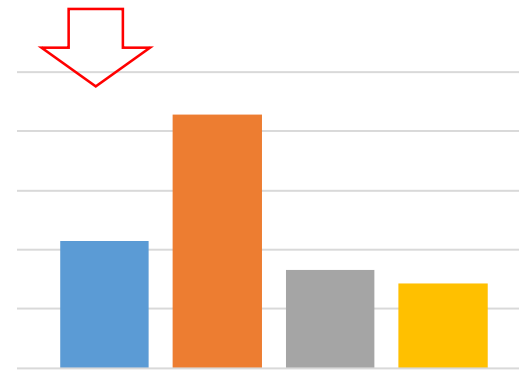
■ 基本自粛 ■ 条件付き自粛 ■ 利用者側から自粛 ■ 変化なし

サービス事業所別 「困難感」

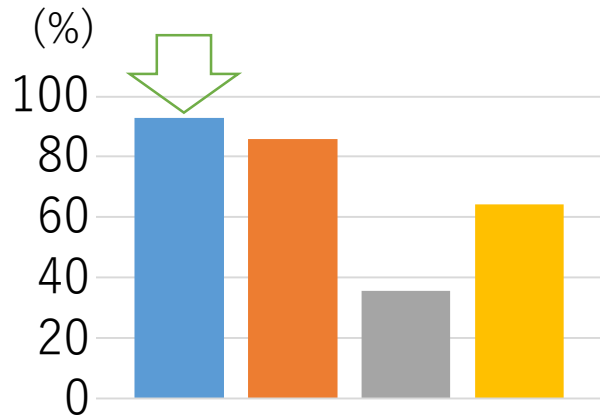
訪問看護ステーション



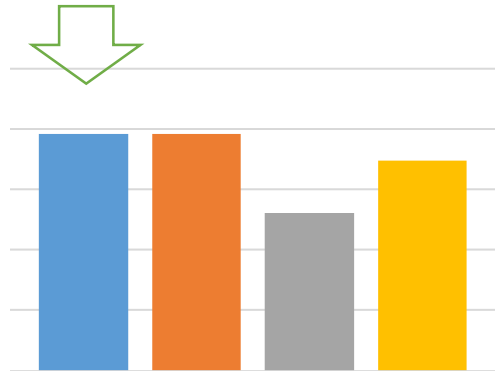
居宅訪問・重度訪問 介護事業所



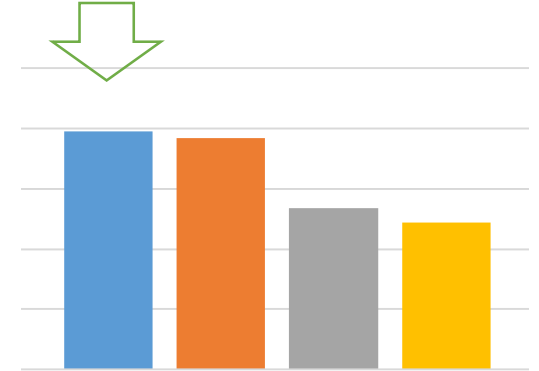
児童発達支援事業所



放課後等デイ サービス事業所



生活介護事業所



■ 感染対策/環境整備 ■ 物品不足 ■ 人員不足 ■ 経営課題

サービス事業所別 「感染防御対応」

訪問看護
ステーション

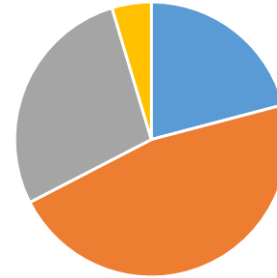
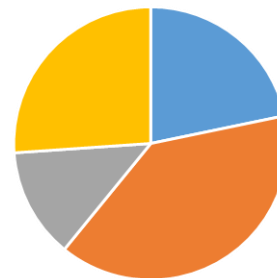
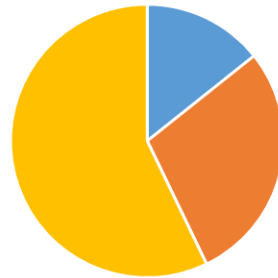
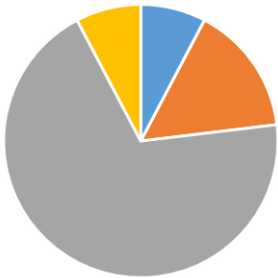
居宅訪問
重度訪問
介護事業所

児童発達支援
事業所

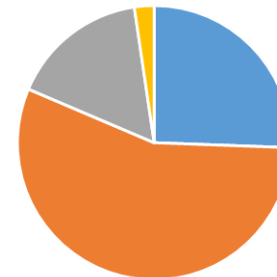
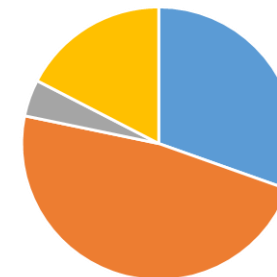
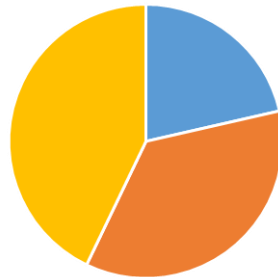
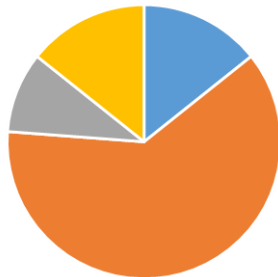
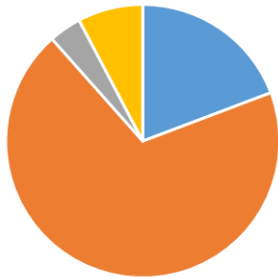
放課後等
デイサービス
事業所

生活介護
事業所

最大
防御



現
状



■ ①のみ ■ ①+③ ■ 全て ■ その他

①マスク (N95含む) ②ゴーグル・フェイスシールド ③手袋 ④使い捨てガウン

「対象児の保護者」アンケートのまとめ

- ・ 医療・福祉系サービス利用の自粛は、乳幼児で顕著も、サービス自粛割合の少ない学童において体調変化が生じやすかった。

→ 学童では、学校生活が重要であり、災害時を含め、学校の再開や預かり方について事前に検討しておく必要がある。

- ・ 主介護者が感染した場合、「家族の付添無しでの入院やレスパイト施設での預かり」を希望される保護者が多かったが、現実には困難と受け止めていた。

→ こうした場合を想定して、自宅管理の方法の可能性や地域医療連携について、事前に話し合っておく必要がある。

「サービス事業所」アンケートのまとめ

“自粛”

- 4割程は 「変更なし」 での対応。
- 訪問看護STでは、事業所側と利用者側の自粛決定が同程度であった。
- 障がい福祉サービス関連事業所では、統一した対応が困難なため事業所側の自粛決定が多かった。

“困難感”

- 8割程は 「**物品不足**」 であった。
- 訪問系事業所と比べ、障がい福祉事業所では**感染防御・環境整備**に苦勞されていた。

“感染防御対応”

- 当初は、特に訪問看護ステーションを中心に、フルプロテクトの割合が目立ったが、現状は「**マスク+手袋**」での対応が大半を占めている。

総括

- ・ コロナ感染者が少ない地方における医療的ケア児と家族を守るための医療体制構築には、自治体行政、感染受入病院、医療従事者、サービス事業所関係者との「**速やかな連携**」が不可欠です。
- ・ 医療的ケア児のサービス利用の自粛や学校の休校は、子どもの体調に影響を及ぼしました。特に、学校は学童の生活リズムにとって重要で、医師はコロナ流行期の学校の利用について、教育機関とも協議できる環境作りを「**平時から**」整えておくことが大切です。
- ・ 主介護者が感染した場合を想定し、地域医療関係者と保護者とが事前に繰り返し議論することで、漠然とした不安を「**具体的な備え**」に繋げることが重要です。